

会議等速報

令和2年2月21日

件名	令和元年度 第2回鹿児島市食育推進委員会	作成課	保健所 保健政策課
日時	令和2年2月17日(月)14時00分～15時30分		
場所	市役所 別館3階302・303会議室		
出席者	公募委員3名、学識経験者1名、消費者団体等の代表者2名、 教育福祉関係団体の代表者4名、保健医療関係団体の代表者2名、 食品関係者2名 計14名(欠席3名)		
市出席者	事務局：保健政策課長、健康づくり係長、係員		
会次第	1 開会 2 議事 議題 (1) 食育フェスタ開催事業について (2) 第三次かごしま市食育推進計画の最終評価及び次期計画策定に向けた今後の進め方について 3 その他 4 閉会		
主な意見等	議題 (1) 食育フェスタ開催事業について (委員) 食育フェスタのアンケートについて、未就学児の回答率が高いが、アンケート内容はどのようなものなのか。子どもが答えやすい内容なのか教えてほしい。 (事務局) 未就学児は保護者と一緒に来場しており、ほとんどの方が保護者が回答している。アンケート内容は全世代同じものを使っている。 (委員) アンケート結果の中で、イベントが「つまらなかった」という回答がある。回答者はどのような世代の人で、なぜつまらなかったのか等の、具体的な理由は分かるか。 (事務局) 回答者は小学生だった。理由等の記載はなかった。 (委員) 保育園には一人必ず栄養士がいるが、なかなか専門性を活かす場というものがない。食育フェスタに関わる、出展するということでPRする場にもなり、よかったと思う。 (委員) 今年度は、今まで以上に活気が感じられたイベントになっていたと思う。イベントで子どもや若い世代を集めるのが難しいが、フェスタでは若い世代の来場者が非常に多い。食育を進めていく中で、非常に大切な世代だと思うので、意味のあるイベントだと思う。ずっと続けてほしいが、今後も継続してもらえるのか。 (事務局) 来年度は開催予定としている。その後も続けていく方向で考えていきたい。		

(委員) イベントがあることで、子どもや若い世代が集まり食育に興味を持ち、また、口コミで広がり次年度の来場につながり、さらに広がるのでとても良いと思う。幼稚園でも、各園で食育に取り組んでいる。この取組をまた、食育フェスタ等の場で発表できれば良いなと考える。

(委員) 今年度は保育園、幼稚園の舞台発表や、絵の展示があったことで来場者増加につながったのではないかと思う。栄養士会ブースでは、市の災害備蓄食の賞味期限が近くなったものを提供してもらい、同ブースの来場者に配布した。災害食についての啓発にもなり、非常によかった。来年度もぜひお願いしたい。

また、お弁当写真コンテストを実施したということだが、何人くらいの応募があったのか。

(事務局) 30名の応募があり、当日は266名の方が投票してくださっている。

(委員) 今年度はぴらも一るでの出展をした。通りということもあり、昨年度より多くの方のブース来場があった。色々と反省もあったが、また、来年度も協力していきたい。

(委員) 今年度は親子連れが多かったように感じた。ただ、午後からの来場が急に減ったように感じたので、また来年度は考えていただきたい。マルヤのソラニワは屋外となっており、雨天時が心配である。来年度の開催場所は決まっているが、今後は天候に左右されないような場所、設備になっていくとよいのではないかと思う。

(委員) イベントを続けていく、ということが大切だと思う。今後も課題等を考えてして行ってほしい。

(委員) 目を引くようなポスターだったので、子どもたちも立ち止まって見ている人が多かったので良かったのではないか。現在は、ネットや SNS などが主流になっているので、そのような広報を考えても良いのではないかと思う。また、鹿児島には多くの農産物があるので、もっとこのイベント内で旬の農産物の PR をすると良いと思う。

(委員) 栄養士会が「災害時の食事」をテーマに出展されている。近年異常気象等、災害が多いので、ぜひ、市民向けにもっと PR して行ってほしい。また、コロナウイルス等流行っているが、食に関しても手洗いは大事だと思うので、そちらも啓発をして行ってほしい。

(委員) 上柿元シェフの親子料理教室は、どのくらいの人数が集まったのか。

(事務局) 18組の親子で実施した。

(委員) 来年度も実施するのか。

(事務局) 実施予定としている。

(委員) 調理師団体では、県内各地で料理教室など食育に取り組んでいる。フェスタには参加していないが、また、今後検討していきたいと考えている。

(委員) 食育への関心度がアンケート調査を見ると低いようなので、そこを高めるためにもぜひ、続けてほしい。

(1) 第三次かごしま市食育推進計画の最終評価及び次期計画策定に向けた今後の進め方について

(委員) 市民意識調査について業務委託とあるが、どのようにするのか。

(事務局) 調査票の郵送、集計を業者に委託予定である。

(委員) 調査対象が3世代の計5, 800人とあるが、人数の内訳はどのように考えているのか。

(事務局) 詳しい人数等はまだ決めていない。決まり次第また、ご報告させていただく。

(委員) 調査内容に合わせて対象者の人数を決めたほうがよいのではないか。

(事務局) ご意見踏まえて今後、検討していきたい。

(委員) 調査対象の区分に「未就学児」もあるが、食育のことを未就学児に聞いて意味があるのか。

(事務局) 食育基本法では食育を全世代に推進すること、また、子どもからの食育が重要であるとしている。このため、未就学児の世代に関しても状況把握をする必要があると考えていることから調査を実施したいと考えている。

(委員) 現計画の目標値の指標は、「食品ロスの認知度」となっているが、認知だけでなく実践することが大切ではないか。調査をする際の設問に、食品ロスに関する取組を行っているかなどの実践度を入れたほうがよいと思う。

(事務局) ご意見踏まえて今後、検討していきたい。⇒下記※①参照

(委員) 子どもたちができる食品ロスについての取組となると、「残食しない」程度になり、できることが限られるのではないか。どの世代を調査対象とするかを考えて項目を決めたほうがよいと思う。

(事務局) ご意見踏まえて、今後検討していきたい。

(委員) 学校では、給食を通しての食育が中心である。この給食を通して子どもだけでなく、保護者にまで食育を行うということを行っていないといけない。学校では残食ゼロなのに、家庭では残すという子どもが多い。今後の意識調査では、全世代5, 800人に調査をしていただけたということなので、学校と家庭での食に関する取組、意識の違いなども見えてくると良いと思う。

(委員) 意識調査の内容は現計画の最終評価のためのものなのか。次期計画策定を踏まえての内容も入れても良いのか。

(事務局) その通りである。

(委員) 現在、高齢者の口腔機能や、子どもの口の発達についてが問題になっているので、そのような内容も入れていただけたらとより良いものになるのではないか。

(委員) 現計画の目標値表現が難しいのではないか。もう少し分かりやすい内容、聞き方にとすると、数値も改善するしよいのではないか。

(委員) 食品ロスについてだが、最近は鶏肉の皮を除いて納品してほしいというような注文が増えている。家庭でも食べないという人が増えているが、そのような、身近なことから食品ロスに取り組む、啓発していくことが大切ではないか。

(委員) 未就学児(の保護者)が回答するには、難しい設問が多いのではないか。全世代が答えやすい内容にした方がよいのではないか。

(委員) 食育に限らず市が行っているアンケートは、難しい、答えにくい内容が多い。皆さんが言っているように、分かりやすい内容にした方が、回答率が上がるのではないか。

※①：平成 29 年実施の市民意識調査でも、食品ロスの認知度と併せて実践度についての項目を入れている。その結果、本市では実践度は 9 割以上と高かったが、それに比較すると認知度は低かった。このため、目標値を実践度ではなく認知度の増加としている。